

2022年6月16日

## 腎がん患者が担当医に聞いておきたい 6つの質問

医師と患者と一緒に治療方針を決めた場合、そうでない場合よりも経過が良好で副作用も少ないことが研究によって明らかになっています。

1

「治療にはどのような選択肢があり、それらのメリットとデメリットはなんですか？」

あなたが受けられる治療は、がんの種類や病期、健康状態によって違います。担当医が最善だと考える治療計画はどれか、費用はかかるか、検査や診察の回数などを担当医に質問してください。

2

「その治療は私の身体や生活にどのような影響を与えますか？」

がんの進行を遅らせたり治療に導くことはもちろん大切ですが、生活の質も重要です。あなたが気になること(仕事、旅行、疲労感、胃腸の状態、性生活)について相談し、治療中にできることとできないことは何かを質問してください。

3

「その治療をどのくらい経験されていますか？」

外科医から腎摘出を勧められたら、過去にどのくらい経験があるか聞いても構いません。他の治療についても同じです。必ずしも若い医師の腕が悪いとは限りませんし、長年の経験があるからといって手術の成功が保証されるとは限りません。とはいえ、質問する価値はあります。

4

「参加できる臨床試験はありますか？」

臨床試験があなたの治療選択肢となるかどうかは、年齢、病期、国内で現在あなたに適した試験が参加者を募集しているかによって変わってきます。臨床試験に興味がある場合はぜひ問い合わせしてみてください。詳しくは [ikcc.org](http://ikcc.org) をご覧ください。

5

「その治療が効いているかどうかはどうしたらわかりますか？」

治療計画の全体像、治療の各段階の目標、治療効果がない場合や副作用が治療の利益を上回った場合にどうなるかを必ず理解しておいてください。また、治療を延期すること、場合によっては治療しないことのメリットとデメリットについても質問してみてください。

6

「セカンドオピニオンを求めてもいいですか？」

がん治療に関する決定は大きな決断事項ですので、セカンドオピニオンを求めたからといって担当医を信頼していないということにはなりません。医師の多くはセカンドオピニオンを求めることに好意的で、専門分野の異なる専門家を紹介してくれることもあります。



「もう一度説明していただけますか？」という問いかけも遠慮せずおこなうべきです。腎がんの治療は、特にあなたが最近診断を受けたばかりであれば、難しく感じることもでしょう。メモを取り、信頼できる友人や家族に同行してもらい、担当医が常にあなたと一緒に治療を決定できるようにしましょう。詳しくは [ikcc.org/kidney-cancer-decision-aid-my-treatment-my-choice/](http://ikcc.org/kidney-cancer-decision-aid-my-treatment-my-choice/) をご覧ください。